



三歳児保育小感

日出學園幼稚園科

土屋眞砂子

一、三歳児入園許可の参考條件

- 1、入園考査の結果心身共に優秀と認められたもの
- 2、家庭が特に幼稚園教育を理解し協力するもの
- 3、兄弟が在園する又は兄弟が幼稚園を修了しているもの

二、三年保育児の一年保育児に勝れた點

- 1、心身共に質が揃つていて何となく線の太い耐久力を感じる。(團體生活に耐え得る自信の下に入園を志望するので)
- 2、純真無垢そのままの發露は常に明るい柔い雰圍氣を作り、その行動は常に微笑をもたらす(年長児に時々見るような、はにかみ、遠慮、飾り氣、意地悪、亂暴等はいさゝかもない)
- 3、惜しげなく心を生のまま發揮するので輔導に心安い。お乳の香のするような甘つたるい親しみは保姆の自然愛をほしいまゝにする。(年長児には努力愛になつてしま

うことも時々はあるが)

4、一年保育児にあつては、母親達が保育效果に期待をかけ過ぎ、物を覚えさせるといふようなことにあせる氣味があるが、三年児にありては、幼稚園の理想の夢の生活を子供と共に楽しんでゐる。同じ様に保姆もその發育段階を長い眼で看守り、のび／＼と自然性に立脚した保育が出来る。

5、一年保育児にあつては、團體の自然制裁に堪えられないで、途中で幼稚園を嫌う様な我儘な事件がよく起るが、三年児にはかつてその經驗がない。之は幼稚園生活が無理なく心にふさはしく身につけて行くからである。年長組へ進むにつれて愈々幼稚園を我がものとして楽しむ精一ぱいの生活が展開されるようになる。

6、製作や音楽遊戲等に於ても、初めは殆ど傍觀を楽しんでゐる、それがいつの間にか入れてという参加性に發展し、遂には自發的に想像創作の力を逞しく發揮するようになる。

三、三歳児の保育上特に考慮した點

1、満四歳以上児に比較して相當その心身の發達に隔りのあることを忘れてはならない。

2、疲勞の打診と適當なる休息に特に留意

3、食事や用便に對する細やかな世話

4、家庭生活に近い靜かな廣い室と設備、

5、所謂率具といつた部類の遊び道具を豊富に、

5、一齊保育を出来る丈避けて、自由遊びを主體とし、製作等も自由遊びの姿の中に發展させる。

7、年長児に特に一人子等に兄弟感情を養ふことには非常に好都合だが、反對に年少児に依頼心を起させないように。

8、年長組へ進むと音楽、製作或は劇遊び等保育材全般に亘つて重復することが多々あるが、その發展的取り扱ひに十二分留意して倦怠感等を起させないように。

四、年長児と一緒に遊ぶ點

組を超越した自然分團を尊ぶ新保育になつてから、この年少児の位置は非常に取り扱ひよく、年長年少共に自然に融和的な保育が出来るようになった。

1、活潑な遊戲機敏を必要とするような遊びには年長と同一歩調がとれない。

2、お話劇遊び等靜かな熱中時にも理解力が幼稚なので、わき見、雑談、ふら／＼歩き等して靜肅を妨げる。

3、近い外出等は大きい組が一人／＼小さい組の責任をもつなどよい機會だが、遠い外出には行動を共にする力がない。

4、兄弟關係の場合によく見るが、兄弟の後ばかり追つて、依頼心強く、離れないと姉妹の自由生活を妨害することがある。年長児と云へど幼児故に始終つきまとはれ

ることは負擔が大きすぎるから。

5、お約束専即ち規律的な生活面に於てはなか／＼年長組と同一にはまいらず、赤ちゃん組として特殊な場合が始終起る。

五、三歳児保育小話

◎櫻組の佐ちゃん、俊ちゃん、和ちゃん達は、日に二三回は必ずやつて来て、私の腰のまはりをお撫でまはして行く。何にも云はないけれどにつこりとほゝえむその眼に頬に何かを求めていることを感づく。私はお母さんの暖い觸感がほしいのだなと思つて、「いゝ子」といつてその時々あつさりながら、どんな忙がしい手でもやめてお相手をして上げる。如何にも安全感を得たようにまた遊びに歸つていく。

◎神経質で食の細い靜ちゃんは御飯の時よく後残りになる。落葉やどんぐり拾いに裏山へ／＼と遊びのうつる頃だつた。誰もいなくなつたお室の中、新學期泣いてばかりいた同じ組の洋子ちゃんが靜ちゃんに御飯を食べさせていた。二人とも顔をくつつけて燕の子のよゝに、口を開けて、その表情の美しさのどかさ、私は自身ケヤクの位置につくことを忘れて三十分間も窓外から覗いていた。その靜ちゃんが年長組になつたこの頃では、櫻組へ行つて盛にお姉様の役目を果している。

◎お集りなどちつとも氣にしない線の太い晃ちゃんは、手

をとられるまで自分の遊びに熱中するので、うつかりすると迷兒になつてしまう。「あゝ今日もまた晃ちゃんが見えない」「お食事ですよ／＼」と呼んで歩けば、顔中砂のお化粧をした晃さんは出窓の下の日向ぼつこで、銀砂に腹這つたまゝ心地よさそうに鼻を立てゝいた。その晃さんが二年目のこの頃はどんな製作にも自分から進んで仲間入りを所望して來るようになった。

◎仇名ピンちゃんは「今日のおかづなーに」「私知つてるから、先生に教えて上げる」「えーとえーと」とおべんとうの報告をするのが朝の御挨拶である。「今日は餘が入つてますよ。そのかはりコツプが入つてませんよ」なぜだかあててというけれどあたらない。お母さまが「お瘦小が続くから今日はこれでもまんなさい」といつたとて得意顔。

◎春の陽盛り田圃にクローバの花を摘む。花の冠を頭に載せて、幾組かの王子王女が練つて行く。歌を歌いつ、語りつ、空腹と汗が可成り迫つて來たけれど、ヨチ／＼組何の不平もない。ふり返つてはにこ／＼笑つている。お母様と一緒だつたら咽がかわいた、何か頂戴、果てはだつこして等きつと駄々をこねるであらうに、團體生活がこんなにも和やかに、子供の心を訓練してゆくのかと、教育的解釋をすれば嬉しい。然し反面先生という冷い位置・誰もだつこして等云つてくれないと思ふといさゝかさびしい。こんなことを考えながら歩いた日の御晝食

後、室の窓側にすわりと並んで足を思い切り伸ばした夢の姿を見た。赤いおふとんをお腹の上にチョコントのせて、たとえようもない愛らしさ。暑い夏の日の裸足遊びや水遊びの後の晝寝に一番グツスリ深い眠りに入れるのも三歳児組である。

◎自分の意にそわぬことば何でもお母さんが、お友達が生がと、駄々をこねて泣き度くもないのに大聲はり上げて愚圖る姿を幾度廊下のまん中に見出したことか、英ちゃんの腕白大官ぶりは幼稚園一だった。然しよいところは、どんなに放り出しておいても叱つても餘計ひつついて來ることであつた。提灯鼻をすりつけてぶら下るので、私達のスカートは、なめくじの足跡のように銀線の模様絶え間なしたつた。その英ちゃんや二二年目のこの頃、メキ／＼と想像性豊かな製作熱をみせて、みんなをグン／＼引つばつてゐる。五月の雨の日だった。一本のぬりちチューリップを中心にザア／＼降りそゞ雨、根元に豆自動車が一臺止つてゐる、晝が黒板に貼られてあつた。クレオンの跡の自由奔放なこと、みとれてゐる背後から「先生ポックリ坊やが、チューリップの花の中で、眠つてるんだからそつとしておいてね」と英ちゃんの手。まことに動中靜ある大きな構想だった。

註◎ぬりちを太平洋のまん中へというお話を先年聞いてから、相當考えさせられたが、子供達がこんなにも好むものをと思つとむざ／＼流し得ないで、それからすつと、

ぬりちをヒントに、自由畫へ、自由貼繪へと、ぬりちの發展的取り扱いを試みている。雨の日等靜かな遊びの誘導の一つとして、私はよく謄寫器を保育室のまん中へ持ち出して、ぬりちを開業する。

◎ポックリ坊やとは、幻燈のスライドの一つで、ポックリ坊やが豆自動車で冒險旅行中野原で大雨に會い、キノコの傘の下に雨やどりし、更に蟻の誘いを得てチューリップの花にうつり、ついに深い眠りに入つてしまふ一場面、一ヶ月に二回位幻燈を行つてゐる。以上。

(一九頁より) 必ずしも眞とは考えられない。

習慣の項目の中では離乳期と食事の習慣が性格と多少連關性を持つが他の項目には特別な傾向は見出し得なかつた。又睡眠の習慣の良否は身體狀況と關係が深いと思われた。

三大項目の中で最も影響の深いのは家庭的條件であつて之に身體的、習慣等の條件が參與して類型差の環境的原因となるものと解されるのである。換言すればこどもの生得的傾向に對して両親が如何なる態度でのぞみ、こどもの經驗世界として如何なる場を用意してやるかという事が性格形成に最も強い方向づけを與えるものであつて、之は結局両親の教養乃至は兒童觀、人生觀等の両親自身の内に存する問題であると思われる。幼兒にとつての理想的な教育的場は人類すべてにとつての理想的な家庭生活であるとも云うべきであらう。